

KUROSHIO

March 2023 Volume 48



鹿児島県立短期大学
地域研究所

KUROSHIO March 2023 Volume 48

Index

■巻頭言

魅力ある県立短期大学づくり	学 長	飯干 明	1
---------------------	-----	------	---

■退任の挨拶

退職にあたって	生活科学科	町田 和恵	2
退任の御挨拶	生活科学科	田中 真理	2
学生に鍛えられた40年	生活科学科	西迫貴美代	3
退任のご挨拶	商 経 学 科	岡田 登	4
県短との出会いと別れ	文 学 科	土持かおり	4

■新任の挨拶

新任の挨拶	学 長	飯干 明	5
新任のご挨拶	生活科学科	広瀬 直人	5
新任の挨拶	文 学 科	小亀 拓也	6

■学外活動の報告			6
----------------	--	--	---

■生涯学習の取り組み

2022年度鹿児島県立短期大学公開講座

「経済・社会・ビジネスの『今』とこれから」	商 経 学 科	岡村 雄輝	7
2022年度伊敷公民館講座シニアいきいき大学	商 経 学 科	岡村 雄輝	10

■地域研究報告 2022年度プロジェクト研究

<共同研究プロジェクト>

新型コロナ支援融資等を受けた鹿児島県内中小企業の調査	商 経 学 科	宗田 健一	12
----------------------------------	---------	-------	----

<個人プロジェクト>

奄美大島・泥染めによる美術作品の制作	生活科学科	北 一浩	12
--------------------------	-------	------	----

■研究・社会活動報告

2022年度 鹿児島県立短期大学教員 研究社会活動実績一覧			13
-------------------------------------	--	--	----

表紙写真：森田 美帆

■ 巻頭言

魅力ある県立短期大学づくり

学長 飯干 明

グランドデザイン答申

2018年に中央教育審議会から「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」が出された。この答申は、第4次産業革命の進展や本格的な人口減少社会の到来など経済社会が大きく変化するなかで、高等教育機関が求められる役割を果たすことができるように検討されたものである。この答申は、2040年頃の社会変化の方向として、①持続可能な開発のための目標（SDGs）、② Society5.0・第4次産業革命、③人生100年時代、④グローバル化、⑤地方創生の5つを挙げていることから、将来も持続可能な高等教育のあり方を示したものととらえられている。

グランドデザインをふまえると、これまで、県立短期大学が取り組んできた、「人材育成」と「地域貢献」について、さらに機能強化を進めることが本学の課題となるが、そのためのポイントとして、「教育の質保証」や「地域連携」などがあげられている。

「教育の質保証」については、学習者本位の高等教育の質保証が求められており、質保証システムを転換する観点として、「学習者が何を学び、身に付けることができるのか明確か」、「学んでいる学生は成長しているのか」、「短期大学の個性が発揮できる多様で魅力的な教員組織・教育課程があるか」を確認することが望まれている。そのための具体的な方策としては、「全学的な教学マネジメントの確立」、「学修成果の可視化と情報公開の促進」、「教育の質保証システムの確立」があげられている。

「地域連携」については、国や地方自治体が取り組む「地方創生」に資する人材を育成するために欠かせないものであり、高等教育機関の強みや特色を活かした連携や統合が求められている。そのための具体的な方策として、「地域連携プラットフォーム（仮称）」があげられていることから、本学の地域研究所の果たす役割が期待される。

鹿児島県教育振興基本計画

鹿児島県は、本県の実情に応じた教育振興のための施策に関する基本的な計画として、2019年度から2023年度までを計画期間とする「鹿児島県教

育振興基本計画」を策定している。その計画では、10年後を見据えた教育の基本目標を「あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり」としており、5つの方向性に基づき施策が展開されている。その施策の一つが、「信頼される学校づくりの推進」であり、その中には「魅力ある県立短期大学づくり」があげられている。具体的には、「国際化、情報化などの時代の要請に対応するとともに、地域社会に貢献できる人材育成を目指した教育内容の充実などによる魅力ある県立短期大学づくりの推進」と記載してある。そして、具体的な取組として、「教養教育と専門教育のバランスのとれた質の高い教育、地元鹿児島県の魅力を伝える講義や体験学習の実施など鹿児島県の魅力を活かす教育、国際感覚の涵養を目的とした学生の海外研修や海外留学の実施など国際化に対応する教育の充実に努め、課題探求・解決能力を有し、将来の鹿児島を支える人材の育成に努めます。」と記載されている。

県立短大の取組

グランドデザインや鹿児島県教育振興基本計画を受け、県立短大では、教育や研究、学生支援、社会連携・社会貢献などに関する内部質保証について検討する体制を整えるために、令和4年11月に自己評価・将来構想委員会のもとに内部質保証部会を設置し、内部質保証要綱を定めた。

鹿児島県が求める国際化については、文学科英語英文学専攻のカリキュラムを学生の学力の変化や学習のニーズに対応するために改訂し、科目を新設したり、内容を変更するなどして令和5年度から新しいカリキュラムをスタートさせる。また、情報化については、既存の情報関連科目をさらに充実させるために、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の導入について検討を進めている。なお、国際化や情報化については、県立短大の全ての学生に求められることから、英語やICT活用の自学自習等について検討していく必要がある。そして、教養教育と専門教育のバランスのとれた質の高い教育などの取組については、今後、教務委員会や内部質保証部会で検討していく必要がある。

■ 退任の挨拶

退職にあたって 生活科学科 町田 和恵

県立短大には大学卒業後、助手として着任してから40年もの長い間お世話になりました。着任当初、4月のひと月は前任者からの引継ぎ期間ということで、5月採用となりました。県短に内定してからは、地方に行ったりすることがあるので自動車免許を取るよういわれ、急遽免許を取りに行きました。今思えば、その時免許を取得して本当に良かったと思います。ただ、当時はお金がなかったので、神戸からの引越し手当てが着任一月以上前に鹿児島に引越して来ているため出ないと事務局で言われたときは、本当にがっかりしたことを覚えています。

研究では、最初のころ鹿児島県の醤油は他県に比べて甘いといわれていることから、塩分が低いのではないかと考え、鹿児島県内の醤油を調査することになりました。一部の地域でしか販売されていないものも多く、今みたいにネットで調べたり、カーナビがあるわけでもなく、道路地図を広げ1人で車を運転し、1週間以上かけて県内で製造されている醤油を9割以上集めました。分析結果は、残念ながら塩分は他県と同じか高いくらいでした。また、40歳を前に鹿児島大学大学院連合農学研究科に行く機会をいただき、そこでストレスホルモンのメカニズムを研究し、忙しく大変でしたが知らない世界に触れることが出来とても素晴らしい時間を過ごすことが出来ました。

学生に対しては、2005年より学業への取り組みを高める目的で1年次に食物栄養専攻独自の病院等でのインターンシップを導入したり、また、病院の管理栄養士を目指す学生に対しては、2011年より総合病院での研修制度を導入したのですが、現場の厳しさに耐えられず、途中で辞める研修生もいました。この方法で良かったのかと自問自答することもありましたが、研修期間が終り病院等でたくましく働いている卒業生たちから、研修に行っても良かったという声を聴くことが出来たときは本当に嬉しかったです。

これまで、多くの方に御迷惑をかけ、それにもかかわらず支えてくださったこと、御礼申し上げます。有難うございました。

退任のご挨拶 生活科学科 田中 真理

2015年12月に着任して7年が経ちました。郷里の福岡を離れ10年近い関東生活から一変、それまではなかなか手に入らなかった甘口醤油が近所のスーパーで売っていることがなんとも嬉しく、九州に帰ってきたのだとしみじみと実感したことを覚えています。着任の翌月には、噂にきく「桜島の灰」、ではなく大雪が降りました。初めて目にした壮麗な冠雪の桜島の姿を思い浮かべると、当時のそんな気持ちが蘇ってきます。

いま振り返ると、着任当初は新たな課題に直面する日々でした。教育では、初めての教職担当が大きな課題で、教員免許を持たない私が担当してよいのかとの戸惑いもありましたが、その都度、教職や教育がご専門の先生方にサポートとお導きいただきながら、なんとか今日まで勤めることができました。特に再課程認定は大変な作業でしたが、初めて文部科学省まで足を運んだことや、申請時に提出資料のちょっとした手違いが発覚して慌てて新橋の漫画喫茶で修正作業に追われたことも、いまとなってはいい思い出です。審査完了までの道のりを一緒に乗り越えてくださった教職員の皆様（特に英語コアカリが入った英文専攻の先生方にはご苦労をおかけしました）、ありがとうございました。研究では、中高年期の夫婦関係や家族関係をテーマに鹿児島県の地域高齢者を対象に調査を依頼し、多くの方々にご協力いただきました。調査協力者の皆様、調査実施にあたりご協力くださった関係機関や本学の教職員の皆様に、改めて御礼申し上げます。その後間もなくコロナ禍となり、高齢者対象の調査は一時中断となりましたが、いまでは若年者も含めた世代間交流にテーマが展開し始めており、研究対象が中高年層から若年層まで広がりを見せつつあります。

この7年余りの県短での歳月は新たな学びや気づきが多く、振り幅を広げる機会に恵まれたように思います。県短の教職員、学生、そしてご縁のあった地域の方々には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後に、今後の県短の発展と教職員・学生の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

学生に鍛えられた40年 生活科学科 西迫 貴美代

今年度初めにスマホにカウントダウンアプリをダウンロードした。以来、退職の日3月31日までの日数を確認している。「退任の挨拶」の原稿を前にいよいよ迫ってきたと実感している（ついに残り110日を切った）。

前期で講義を終えた『スポーツ健康論』では、最後に学生たちへ「皆さんに鍛えられた40年であったこと」の感謝を述べた。夏季休業には、卒業生と同僚の教員、職員のお手伝いをいただき、体育館2階研究室、資料室、そして私が助手、助教として30年間過ごした1階の準備室を中心に書籍整理と廃棄作業のお手伝いをいただいた。私一人ではとてもここまでの作業はできなかった。思えば40年間の長さは、廃棄した物の量と比例していて、まだ途中である。後期成績提出を終えた後が最後の断捨離作業となる予定。夏の作業は貴重なブレ学習となった。紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

さて、巷ではカタールW杯日本代表チームの監督森保氏のメモが話題となっている。何が書かれているのか？選手とのコミュニケーションのために残しておきたいことや気づいたことをメモするという。チームをどうマネジメントするか？必要なツールとして活用しているという。実は、次の断捨離作業の予定には、40年間溜め込んだ研究・授業記録メモがある。夏には廃棄する決断ができなかった。

この私のメモと森保監督のメモとは比べることはできないが、私にとってもスポーツ教材「を」教えることとスポーツ教材「で」教えることを整理するためには必須のツールである。本学勤務40年間、毎回の授業後の学生の学習記録に目を通し、短いコメントを書く。全学生必修（1・II部）の科目のため1年生学習カード130名分が前・後期ともに続く。また講義でも毎回のワークシートに目を通し次の講義で共有すべき内容を抽出提示する。「学生に鍛えられた」とはまさにこのことである。なんと40年間の本学での体育実践記録が2度目の活用の機会を待って放置されたままである。まず本学初代の体育担当の児島（文）先生が県との交渉で、「南国であるからこそ、ウィンタースポーツに触れさせる」意義があると主張し、実習

費一部県費補助を得て実現し、長く実施してきた「スケート実習」のプランや到達度表作成の資料。そして前任者瀬戸口先生との期間は、本学で利用できる体育施設を利用して実施できるスポーツを中心に（ゴルフ、フットサルなども）、最終授業では各クラス毎に「スポーツ大会」計画と実際の運営まで学生と共に実践してきた資料。9年前より一人スタッフになってからは、前述した「学習カード」「ワークシート」である。これを40年間続けた結果の大量の授業記録の山に、我ながら立ち尽くしてしまい、すぐ廃棄とは決断できなかった。メモのまま放置していることへの罪悪感もある。もちろん、これらの資料メモは、次の授業展開に役立ててきた（1度目の活用）。その中で一定の指導系統計画の妥当性に確信を持つことにつながっている。しかし、令和2年に70周年を迎え、その半分以上を県短で過ごしてきた40年間の記録を整理する作業を私自身がサボっているのである。断捨離作業で「残すべきもの」を精査するには、あまり時間はない。退任の挨拶として、せめてこれまで出会ってきた全ての学生たちへの感謝を伝えねばと。皆さんに鍛えられた40年間であり、授業やサークル活動、自治会行事等でも楽しい時間を過ごすことができたことに感謝する。ICT教育時代となり、記録を残す方法にも変化を迎えている。学生にとって、2年、3年間の短い期間ではあるが、この県短でのちょっと変わった体育（組織・管理・運営能力へつながる願い）の授業風景を思い出していただければ幸いである。

退任のご挨拶
商経学科 岡田 登

2016年4月に着任してから7年間経ちますが、この度退職することになりました。着任前は群馬県で市役所職員をしていたため、実務的な仕事から大学教員に一変しましたが、周囲の方々の支援を受けて勤めることができました。

研究面では、経済地理学のうち農業を専門にしているため、南の農業先進地である鹿児島県内の農業法人を調査しました。研究のヒントは現場にあると考えているため、日本の農業地域の在り方を問いながら、何度も薩摩半島、大隅半島、離島を回りました。鹿児島の農業を先導する農業者との出会いや繋がりは貴重な経験になりました。教育面では、本学の多くの学生は鹿児島県内に就職するため、20年後50年後の鹿児島がどうあるべきかを学生に問いかけ、共に考えるような講義内容を意識しました。特に、ゼミ活動では地域参加型のフィールドワークに重点を置き、南日本リビング新聞社主催の「かごしまバル街」、鹿児島県農業法人協会主催の「ファーマーズマーケット」、日置市美山地区の「美山の朝マルシェ」の運営に携わりました。国内留学を終えた最後の3年間は県短のある下伊敷栄門地区の方々と共に活動し、eimon park bazaar（栄門パークバザール）の運営をしました。このような活動を通じて学生の成長を感じることができました。生活面では、鹿児島に来たことで2人の子供に恵まれ、鹿児島育ちの6歳と3歳になりました。

鹿児島では人も気候もあたたかく、とても居心地の良い所でした。しかしながら、次の挑戦に向かって、来年度から北の農業先進地である北海道で研究することに決めました。家族共々、鹿児島では多くの方々との出会いがあったため、私の都合で家族に別れを強いることになり、申し訳なく思っております。研究面と教育面では、鹿児島において自分にできる限りのことはしてきたつもりですが、四年制大学化が進展しなかったことだけが残念です。これまで支援して下さった方々には大変感謝しております。ありがとうございます。

県短との出会いと別れ
文学科 土持 かおり

本学との出会いは、私が小学生頃に遡ります。体育館横の2階建ての小さな国家公務員宿舎に住んでおり、本学グラウンドは私の大好きな遊び場でした。それから10数年たち、縁があり、助手として本学に採用されました。30代になってからイギリスのリーズ大学大学院での海外研修が認められ、そこで私の専門である英語教育学(TESOL)を本格的に学ぶことができました。この大学院を選んだのは、論文や著書を読んで英語教育者として大きな影響を受けた Martin Bygate 教授がいると知ったからです。TESOL 分野での論文や本を読んでいると、著者の人間性が感じられる場合が多く、まさしく Martin はその通りの方で、学習者にのみならず人間そのものに温かい目を向けている方でした。リーズ大で学んだことが原点となり、現在まで授業及び研究に生かすことが出来ていると今でも度々感じています。

助教になって数年後、念願であった教職の教科の指導法の科目である「英語科教育法」を担当できるようになったことは大きな喜びでした。試行錯誤で何とか順調になりかけた頃、文科省による教職再課程認定が入ってきました。中・高等学校教員養成課程の外国語（英語）コアカリキュラムが提示され、科教育法の授業に文科省が示す23個もの学習項目を入れることが必須となりました。文科省はあくまでも4年生大学を念頭においているので、その半分しか修学期間がない短大には大変なことです。23項目以外にも授業で扱いつける必要があると私が感じている事項もあるため、後期科目を前・後期科目にして1コマ増やしたところでカバーしきれない、絶対無理！とあきらめかけもしましたが、何とか乗り切ることが出来ている現在です。そして、この再課程認定とともに、大きく改訂された学習指導要領及び検定教科書、それに伴う小・中校英語授業の変化へと研究テーマもシフトしてきました。

残念ながら大学教員としての職を2023年の3月末で辞することとなり、実質研究生活も終わります。しかしながら、ここでの教育経験を次の新しい地でも何か生かせる活動をしていけたらと思っています。

■ 新任の挨拶

新任の挨拶 学長 飯干 明

2022年4月に学長を拝命しました飯干 明です。宮崎県の神話と伝説の町、高千穂町で生まれました。小さい頃から野球が大好きで、プロ野球の選手になることが夢だったことから、中学校では野球部に入部しました。あこがれの野球部は、新入部員は毎日球拾いだけというのに嫌気がさして1ヶ月ほどで退部しましたが、学年で一番足が速かったことから陸上部の先生に誘われて陸上部に入部。先生から勧められて始めた走高跳で、3年次に全日本中学校放送陸上競技大会で宮崎県1位となりました。県内で陸上競技の強かった複数の高校から誘いを受けましたが、野球を諦めた後、建築家になりたいと思っていましたので、工業高校の建築科に進学するか普通高校に進学するか悩みましたが、陸上競技の名門校であった県立延岡西高校（少子化の影響で2007年に廃校）の普通科に進学。そこで、体育教師であった陸上部の先生から懇切丁寧な指導を受け、いつしか高等学校の体育教師を目指すようになり東京教育大学（1978年に閉学して、筑波大学の母体に）体育学部に進学しました。

大学時代、専門分野についてしっかり勉強したつもりでしたが、4年次の都立高校での教育実習で勉強不足を痛感し、筑波大学大学院修士課程体育研究科（1回生です）に進学。そこで、恩師の「生活の体育化」に関する講義を受け、「体育の原点は生活である」という発想に、体育とはスポーツを行うことが中心であると認識していた自分はカルチャーショックを受けました。その後、鹿児島大学で教職に就くことができ、生活の体育化（今では、全生活型体育）や陸上競技等に関する研究に取り組みました。

鹿児島大学では40年間、教養教育を担当し、最後の6年間は共通教育担当副学長として、共通教育改革に取り組みました。エジソンの名言「よりよい方法があるはずだーそれを見つけよ」を心にとめ、教職員の方々の協力を得ながら、魅力ある県短づくりにこれまでの経験を少しでも役立てることができるよう尽力したいと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。

新任のご挨拶 生活科学科 広瀬 直人

2022年4月に生活科学科食物栄養専攻に着任しました。どうぞよろしく願いいたします。経歴を簡単に紹介しますと、大学卒業後にケチャップメーカーで原料であるトマトの加工と香辛料の品質に関する研究を行いました。その後、大学院を経て沖縄県農業試験場（現：農業研究センター）および工業技術センターにて、主に農産物の加工利用と鮮度保持に関する研究、JAや企業への技術指導を行ってまいりました。つまり、私の研究生生活のほとんどは「農産物の加工利用」というキーワードで括ることができるかと思います。なかでも、最も多く携わったテーマは『黒糖』でした。黒糖は、サトウキビを原料とした代表的な農産加工品です。鹿児島県でも南西諸島を中心に黒糖が製造されるほか、黒糖を原料とした焼酎も特産品であり、なじみがある食品かと思います。黒糖製造技術の基礎的な部分は1964年に出版された「シュガーハンドブック（朝倉書店）」の頃からほとんど変わっておらず、製造現場でも経験則によっているものが多々あるなかで、まずは黒糖が固まるために必要な条件を決定し、その知見を基に小規模試験製造装置を開発するところから研究が始まりました。また、黒糖の保存試験も行ないましたが、黒糖は30kgの箱で製造されるものが多く、これが沖縄県内8工場×複数ロット×数年分あるわけですから、黒糖の量と香りに圧倒される大変な、いや、幸せな仕事でした。

食物栄養専攻では、食品に関連する講義や実験を担当しています。生きるために「食べること」は欠かせないものですが、食べる量や種類によって健康にも不健康にもなります。近年は健康の維持・増進に寄与する食品の機能性（機能性という概念は日本で生まれたものです！）が次々に解明されています。また、加工や保存などによる成分の変化を知ることが大切です。食に関心を持ち、本学での学びが社会人として活躍する際に役に立つよう、さらには生涯にわたって学び続けるきっかけとなれるよう、お役に立てればと考えております。

■ 生涯学習の取り組み

2022年度鹿児島県立短期大学公開講座（鹿児島県民大学連携講座）

「経済・社会・ビジネスの『今』と『これから』」

商経学科 岡村 雄輝

本年度の公開講座は、商経学科の教員が各々の専門領域から現代の経済社会の諸相を紐解きながら、今後を展望するという趣旨のもとに「経済・社会・ビジネスの『今』と『これから』」と題して実施された。5月21日から7月9日まで毎週土曜日の午後、全8回におよんだ本講座は、受講登録者数23名、延べ受講者数148名であった。全8回のうち6回以上受講した19人には修了証が授与された。以下では、講座各回の担当者とテーマ（表1）、講座概要を掲載する。

◇各講座の担当者とテーマは次表の通りである。

回	実施日	担当者（所属）	テーマ
1	5/21	岡田 登（商経学科）	鹿児島の農業と食の展開
2	5/28	船津 潤（商経学科）	財政について考える
3	6/4	近間 由幸（商経学科）	コロナが雇用に与えた影響とアフターコロナの働き方
4	6/11	山本 敬生（商経学科）	鹿児島の近未来像を読む
5	6/18	野村 俊郎（商経学科）	日本のプロセス・イノベーションと人間労働の未来
6	6/25	岩上 敏秀（商経学科）	進化する金融とわたしたちの生活
7	7/2	山口 祐司（商経学科）	経済安全保障と医薬品開発－新型コロナパンデミックの教訓－
8	7/9	田口 康明（商経学科）	学校教育の「今」と「これから」

◇各講師の講座内容は次の通りである。

第1回 岡田 登

本講座の前半は「農業法人化による企業的農業」をテーマとした。全国的にみても鹿児島県では農業法人化が進行しており、その傾向は野菜生産で顕著である。このため指宿市、鹿屋市、大崎町、沖永良部島の野菜生産法人を事例にして経営内容の差異とその要因を解説した。講座の後半は「農村空間の商品化と都市の農村化」をテーマとした。農村空間の商品化とは、農村空間の生産空間という性格が相対的に低下し、消費空間という性格が強くなる現象である。一方、都市の農村化とは、都市圏が田園にまで拡大することで、都市内部で農村的な特徴が表れる現象である。講座の後半も鹿児島県各地の農村部と都市部を事例にそれらの現象を解説した。

第2回 船津 潤

まずは、受講者の皆さんの多くも懸念しておられるであろう「財政破綻」について考えました。具体的には、たっぷり時間があることを踏まえて、近年注目されている「現代貨幣理論」の考え方を

紹介しつつ、国債が発行されて民間銀行が引き受けた場合、民間の預金にどんな影響があるのかといった、多少専門的ではありますが、一般的に誤解されている事柄等について、じっくりと解説しました。また、日本銀行法や財政関連のデータを踏まえて、当時新聞等で話題になっていた政治家の発言に関する記事について検証するなどしつつ、財政に関するメディアリテラシーの向上に寄与する講座を目指しました。

第3回 近間 由幸

新型コロナ禍では、失業者の増加よりも休業者の増加が顕著であった。多くの企業では、雇用調整助成金を通じて解雇ではなく雇用を維持する方向で対応したと言えるが、他方では「シフト制労働者」であることを理由に補償なき休業を余儀なくされた人々が問題となった。一方、アフターコロナを見据えた働き方改革としては、従来型の終身雇用、年功賃金の正社員をより少数精鋭化し、ジョブ型正社員や個人事業主等の多様な働き方を認める方向性が提唱されている。講座では、若年世代の仕事に対する価値観の変化や人口減少に対応するための人事改革の方向性について、事例を

挙げて解説を行った。

第4回 山本 敬生

鹿児島県の近未来はどうなるのか。鹿児島県の運命を左右する問題として、馬毛島問題、川内原発問題、金融緩和問題、消費税増税問題、憲法9条改正問題があげられる。この5つの問題の本質を詳細に解説し、いかなる解決策が考えられるかを考察した。結局のところ、住民を守ることが首長の任務であり、国の政策が住民生活にダメージを与えるような場合は、積極的に首長は「NO」を言うべきであること、特に鹿児島は明治維新発祥の地であり、近代日本の礎を築いた地であるので、薩摩国の首長は国に異議を申立て、他の地方公共団体をリードする政治的責務があることを提言した。

第5回 野村 俊郎

最初に「イノベーションとは何か」について、要因は技術か工夫か、対象は製品（プロダクト）か工程（プロセス）か、競争相手への作用は破壊的か共存的か等に分けて解説した。そのうえで、AI・IoT・DX（技術によるイノベーション）の時代に、日本のプロセス・イノベーションを代表するトヨタのカイゼン（工夫によるイノベーション）が高い競争力を持ち続けているのは何故かについて説明した。最後に、トヨタのカイゼンは長期継続雇用で獲得される幅広い技能を基盤としており、そうした技能形成を妨げるジョブ型雇用では実現せず、職務を限定せず社員教育で広く技能向上を図れるメンバーシップ型雇用で実現することを示した。

第6回 岩上 敏秀

金融サービスが大きく変わろうとしています。米国では、スマホのネットショッピングで、購入プロセスの中にローン機能を組み込むサービスが開始されています。このことは金融サービスの概念を変える可能性があります。利用者にとってこれまでは、預金、ローンといった金融取引自体が金融サービス利用の目的でした。これからは、金融取引自体ではなく、日常生活のさまざまな目的を達成するためのプロセスの一つとして金融サービスを利用するようになります。次世代の銀行取引でも、利用者にとって、より便利に、より簡単に、よりわかりやすく、しかも手間がかからず自動化されている、そんな金融サービスが主流となっ

てくるでしょう。

第7回 山口 祐司

米中対立や新型コロナウイルスパンデミックの影響で、近年経済安全保障という言葉がメディアでしばしば取り上げられている。国家の存立に関わるような物資の供給を市場原理のみに委ねるのではなく、安全保障の観点から国家が支えるということである。新型コロナワクチンに見られるように、新規に開発される医薬品もそうした物資として認識されるようになってきている。ただ、医薬品研究開発のシステムは、それをリードしているアメリカにおいても高薬価などの問題を抱えており、日本においてもアメリカ型の模倣でない仕組みを慎重に検討していく必要である。

第8回 田口 康明

コロナによる「強制休校命令」発出という異例な事態によって学校教育は大きな転換点を迎えた。これまでの集団活動を前提とした教育活動は見直しを強いられている。このことは、社会全体のグローバル化とデジタル化によって、早晚転換が迫られていたが、諸条件に関する議論もそこそこに急速に進められている。こうした日本における近代教育について約150年程度のスパンでその展開を紹介した。

主な内容は、①江戸時代の庶民の教育である「寺子屋教育」、②明治期の教育改革による国民の意識改革。③むらをつくる学力とむらを捨てる学力、④戦後日本教育の教育改革、⑤高度経済成長期の人材開発、⑥デジタル教科書の登場と「ニューノーマル」における能力主義の徹底。こうした内容である。

◇講座の最後にアンケート調査を実施し、15人から回答が得られた。以下ではアンケート結果のまとめを記す。

1. 今回の講座を知ったのは

①短大のホームページ	4
②県短からのお知らせ	8
③ポスター	1
④知人から	0
⑤その他	2
無回答	0

2. 今回の講座は
- ①よかった 15
 - ②ふつう 0
 - ③よくなかった 0

3. 今回のテーマは
- ①よかった 13
 - ②ふつう 1
 - ③よくなかった 0
 - ※ 無回答 1

4. 自由意見

- * 第6回「進化する金融とわたしたちの生活が、とても興味深かったです。金融というと、なんだか難しそうに思いましたが、実際にその現場におられた先生ということで、話も具体的でわかりやすく、自分にも関係があることなのだと思うと、最近、ニュースなども興味を持ってみるようになった気がします。
- * 鹿児島県の農業の現状が良くわかった。変わりゆく金融、お金の流れ等が良く理解できた。講座については、もっと掘り下げて聞きたかった。
- * 毎回、色々なテーマで知らなかったことも多く、興味がわくことが多かった。新しいことを学ばなければならないと思った。
- * 現代科学や情報の最先端に関わる多岐にわたる興味深い講座の中、特に、財政、金融の流れなどを、今回学んだ知識を自分なりに理解し、日常生活に活かしていきたいと思います。
- * 鹿児島県の農業について、国内の自給率が少なく、気にしている自分があります。これから農業分野に国の力を注いで、農業のすばらしさを国民にも周知してほしいです。
- * 私たち高齢者は、外で学ぶことがあまりないので、ありがたく喜ばしいことと思います。
- * 様々な社会・ビジネスの今の状況がわかりました。
- * 内容が豊富で理解しやすかった。
- * 自分の生活に直接・間接的にかかわるテーマが多かったので、大変興味深かったです。
- * 身近に感じ理解しやすかった。
- * 新型コロナへの我々の対応も進化していくように、世の中も変わっていくのだなど、感じられたり、考えさせられたりと良いテーマだと思いました。
- * スライドと資料以外の関連説明の講話が良か

った。

- * 学校教育の歴史を知る良い機会でした。
- * 難しい社会でついていけない事柄もありますが、大いに役立っていることが多いと思いました。
- * 時代の変わり目での状況がわかりました。
- * 現状とこれからの変化が良く理解できた。
- * 毎回、講師の先生が熱心にわかりやすく語っていただき楽しかった。
- * 講座教室のコロナ感染予防対策に尽力された環境の中で、安心して受講でき、さらに資料とスライド作成等、大変ご苦労様でした。
- * 年金生活なりの経済が不安です。物価が上がります、このままでは生活苦になる。日本はどうなるのでしょうか。
- * このような機会を利用して頂き、認知症防止に努めていきたいです。
- * 新しい知識を得ることにより、これまでの一定化した考え方に変化が出て、さらに学習意欲が高まりました。現在、難関資格取得受験に向けてのプレッシャーを自分に与える日々ですが、この度の講座受講に参加させていただいたことで、「希望」を抱きながら挑戦して行く「エネルギー源」となりました。深く感謝いたします。
- * 健康教室やその他講座はかなりありますが、それぞれが主体の思考のもとで学んでいます。短大は、すばらしすぎて、弱い私ですが、頑張りたい一心で本日になりました。感謝いたしております。ありがとうございます。

かごしま県立短期大学 公開講座
令和4年度鹿児島県立短期大学公開講座
経済・社会・ビジネスの「今」と「これから」

2022 5/21-7/9
開講時間(標準時)
13:30-15:30(開場 12:00)

鹿児島県立短期大学 3号館 第14講義室
〒890-0046 鹿児島県鹿児島市下田1-15-1
TEL 099-282-1111 FAX 099-282-1112
E-MAIL info@kagoshima-u.ac.jp

2022年度 伊敷公民館講座
商経学科 岡村 雄輝

本年度の伊敷公民館講座「シニアいきいき大学」は、本学の文学科、生活科学科、商経学科の教員が講師を担当し、10月12日から12月1日まで、全8回実施された。受講登録者数27名、延べ受講者数189名であった。受講者のアンケートからは、「初めての講座受講で、緊張しながらの参加でしたが、先生の話も分かりやすく楽しく2時間が過ぎた」「県短の先生方による多岐にわたる専門的な話を聴けてよかった」「やはりしっかりとした研究にもとづく話は深みがある」といった公表をいただいた。以下では、講座各回の担当者とテーマ（表1）、各担当者による講座概要ならびにコメントを掲載する。

表1 各講座の担当者とテーマ

回	実施日	担当者（所属）	テーマ
1	10/12	中熊 美和（生活科学科）	鹿児島の食文化
2	10/19	木戸 裕子（文学科）	平安貴族の就職活動 申文を読む
3	10/26	小林 朋子（文学科）	おとぎ話で読み解く文化の諸相
4	11/10	船津 潤（商経学科）	鹿児島の近未来像を読む
5	11/17	田邊しずか（生活科学科）	外国文化を受容すること、1920年代のパリ・ファッションと麻雀
6	11/24	岡田 登（商経学科）	なぜ鹿児島は畜産が盛んなのか
7	12/1	竹本 寛秋（文学科）	カウンター・カルチャーと屋久島、諏訪之瀬島、奄美大島

第1回 中熊 美和

【概要】

鹿児島の食文化としてかごしまの味を提示し、現在私が研究している指宿市鰻地区のスメについても紹介した。鹿児島は南北600kmと広く食文化も多様であること、食文化の継承の問題など多岐にわたりお話した。

【コメント】

今年度トップバッターであったが、熱心に聞いていただきうれしかった。むしろ私が教えていたきたいことも多いと感じた。質疑応答の時間を設けて、活発なご意見・ご質問を頂戴出来て大変有意義な講義となったと思う。

第2回 木戸 裕子

【概要】

平安時代の中流貴族たちが除目に提出した申文（もうしぶみ）を読み解くことで、今も昔も変わらない希望の職に就くための苦勞、不公平な人事に憤る気持ちを紹介した。

【コメント】

普段なじみのない平安時代の漢文を取り上げたので、どれくらい関心を持って聞いていただけるか不安だったが、アンケートでは当時の中流貴族の切羽詰まった心情に驚いた、現在の公務員より

よほど民主的かもしれない、などの感想をいただき、ある程度興味をもってもらえたことに安どした。

第3回 小林 朋子

【概要】

17世紀にシャルル・ペローがフランス農村に伝わる民話を改作し『昔話集』に掲載して以来、「赤ずきん」の物語は、無数の「書き換え」が行われてきた。本講座では、ペロー以降の代表的なテキストを歴史的に追いながら、時代ごとに変遷する「赤ずきん」を比較して読むことで、物語の背景にある時代を覆う価値観や、物語から垣間見える人々の生き方について解説した。

【コメント】

講義後には日本の昔話を例にとりて質問をしてくださる方があり、フォークロア研究の楽しさを受講生の皆さんと共有することができたように思う。大変有意義な時間を頂いた。

第4回 船津 潤

【概要】

需要供給の法則といったごく基本的な理論を活用することで、話題になっている出来事をより深く理解し、メディアリテラシーを高めることがで

きることを実感してもらえらる講座を目指しました。具体的には、黒田日銀総裁による超低金利政策について、債券価格と利回りの関係や空売りの仕組み、報道の問題点等を踏まえて解説する等しました。

【コメント】

受講者の皆さんがとても熱心に受講し、積極的に質問してくださったおかげで、充実した内容になったと思います。大変やりがいがありました。

第5回 田邊 しずか

【概要】

本講座では1920年代フランス上流階級女性たちに麻雀が受容された要因や、どのように受容されたのかを解説。要因については、オリエンタリズム、シノワズリ、エキゾチシズムといった異国趣味や、パリのアメリカ化という当時の社会現象から読み解いていった。加えて、麻雀が行われた場所、ファッションとの関わり、麻雀の柄が商品デザインに取入れられた例を紹介した。

【コメント】

多くの質問をいただき、関心を持って聴いていただけたように思う。西洋の異国趣味に関しては特に異文化理解のための知識のひとつとして今後また機会があれば取り上げたい。

第6回 岡田 登

【概要】

農業立地論によれば、農産地で生産される品目は消費地（大都市圏）との関係性によって決定される。すなわち、どこに大都市圏が成立するのか、これに対して農産地がどこに位置しているのかが重要となる。本講座では都市の発展過程と農業立地論の両方の観点から、なぜ鹿児島県では畜産が盛んであるのかを解説した。

【コメント】

今回の講座では理論的な解説だけで講義を進めるという自分にとって新たな試みであったため、途中で飽きられてしまわないか不安であったが、最後まで講義を真剣に聴いていただき、理解を得られて安心した。

第7回 竹本 寛秋

【概要】

一九六〇～七〇年代、資本主義社会からドロップアウトし、原初的な生活を理想として放浪し、

鹿児島島の島々に移り住んだ所謂「ヒッピー」と言われる人々を取り上げ、彼等の詩、音楽、美術にわたる多様な活動を紹介した。日米安保条約の改定など当時の日本の時代背景、世界に広がる「カウンター・カルチャー」の流れなどを踏まえて、現代日本の思想・文化の背景について考えるきっかけとなるような内容になるよう心がけた。

【コメント】

受講者のみなさんには、たいへん意欲的に参加していただき、様々なことを共有できる時間となったと考えています

2022年度プロジェクト研究

＜共同研究プロジェクト＞

新型コロナ支援融資等を受けた 鹿児島県内中小企業の調査 商経学科 宗田 健一

本研究の目的は、喫緊の国家的課題であるコロナ禍の中小企業の資金繰り支援における会計情報の活用状況を調査・分析することにより、アフターコロナにおけるデフォルト(資金繰り支援を受けた中小企業が債務不履行・貸倒れに陥ること)リスクを指摘し、デフォルトの軽減・回避について会計面から検討することにある。

そこで、鹿児島県内外の4機関(①金融機関 ②税理士事務所 ③信用保証協会 ④中小企業)に対し、「融資判断や保証判断の際の会計情報の活用状況」「中小企業経営者の会計情報生成・開示状況」等、詳細な実態調査(アンケート調査・インタビュー調査)を実施することを予定している。

これらの調査結果から「会計情報を十分に活用しない融資や保証判断」の問題点を指摘し、改めて中小企業の会計情報の生成・開示・活用の重要性を指摘する。さらに会計情報を活用し情報の非対称性を解消させることにより、デフォルトを軽減・回避する理論的モデルを構築する。

3年計画の2年目は、信用保証協会の保証業務、金融機関の融資に焦点を絞り、調査・研究を行った。兵庫県信用保証協会による保証承諾金額と代位弁済率の推移について、1972年から2016年までのデータに基づきその推移と傾向を分析することにより、保証承諾金額が上昇後、一定期間後に代位弁済率が上昇することを明らかにした。これは、借入れを行った中小企業が、デフォルトを起こしていることに起因すると考えられる。

また、鹿児島県中小企業家同友会の会員企業を対象として、「アフターコロナ金融支援に向けた鹿児島県内企業アンケート調査」を実施した。当該結果に基づき、中小企業における資金調達の実況、返済可能性などについて経営者の意識を明らかにし、融資制度設計における会計情報活用の必要性、キャッシュ・フロー情報の重要性を指摘した。

2年目は、研究成果の一部として、次の2点の論文を公表した。

榑部幸子(2022)「クライシス下における信用保証協会の役割 ―中小企業支援に着目して―」『非

営利法人研究学会誌』第24号, 51-60頁。

榑部幸子・宗田健一(2022)「中小企業における資金情報作成の必要性 ―コロナ金融支援を受けた中小企業に対するアンケート調査の分析を基礎として―」『大阪学院大学商・経営学論集』第48巻第1号, 29-48頁。

なお、本研究は、榑部幸子氏(大阪学院大学)との共同研究である。

〈個人プロジェクト〉

奄美大島・泥染めによる美術作品の制作 生活科学科 北 一浩

過去数年にわたり自身の制作活動を奄美大島に行っている。大島紬の特徴でもある、多岐にわたる工程(主に、図案・締め・染色・加工・製織)の中でも、染色(泥染め)を制作に取り入れている。全て島の中で完結し、自然の理にかなった方法で行われる泥染めに感銘を受けたためである。そんな泥染めを利用した美術作品の制作を数年にわたって取り組んできた。

昨年度までは、海外での作品発表を重点的に行っており、相応の結果と反響を得ることができた。今年度は、海外に加え国内においても作品の発表に取り組んできた結果として、“アートオリンピック2022”にて入選を果たした。同コンペは規模としては国内でも最大級のもので、世界21カ国より2450作品の応募があり、その上位80作品に選ばれた。オーソドックスな絵画作品が多数の中、形態が異なる自身の作品が評価されたことは、今後の制作活動の大きな刺激となった。また、コロナ禍の影響でアート業界も展覧会やアワードがオンライン上で行われることも珍しいものではなくなった中、“Voices of Tomorrow International Art Award”というオンラインのアワードも受賞したこともここに記しておきたい。



Canvas of Corozome #64 / mud dyeing on canvas / アートオリンピック2022 入選

鹿児島県立短期大学教員 研究・社会活動報告一覧
2022年1月～2022年12月

飯干 明 学長

社会還元

1. 講師
「身体の上質な使い方」附属図書館金曜講演会，2回目「頭から足先まで上手に使う」，於：鹿児島県立短期大学，2022年11月11日

社会活動

1. 燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会総務専門委員会副委員長，2013年～現在
2. 燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会鹿児島市実行委員会参与，2022年～現在
3. 全国栄養士養成施設協会理事，2022年～現在
4. 鹿児島ユネスコ協会顧問，2022年～現在

文学科

日本語日本文学専攻

木戸 裕子 教授

学会活動

- ・ 和漢比較文学会 1986年5月～現在 和漢比較文学会常任理事2011年10月～現在 和漢比較文学会西部例会委員会副委員長2015年10月～2021年9月 和漢比較文学会西部例会委員会委員長2021年10月～現在 和漢比較文学会編集委員2021年10月～現在
- ・ 中古文学会1986年5月～現在
- ・ 西日本国語国文学会1988年9月～現在
- ・ 東アジア比較文化会議 2002年9月～現在
- ・ 説話文学会2005年6月～現在

社会還元

1. 講師
「紫式部集を読む」金曜会（読書会），於：鹿児島青年会館艸舎，2019年9月～現在
2. 講師
「伊勢物語 業平と有常」鹿児島読書サークル，於：鹿児島市教育総合センター，2022年9月9日
3. 講師
「平安貴族の求職活動 申文を読む」伊敷公民館講座 シニアいきいき大学，於：伊敷公民館，2022年10月19日

社会活動

1. 鹿児島市文化財審議会委員
 - ・ 2013年11月～2015年10月 鹿児島市文化財審議会委員
 - ・ 2015年11月～2017年10月 鹿児島市文化財審議会委員
 - ・ 2017年11月～2019年10月 鹿児島市文化財審議会委員
 - ・ 2019年11月～2021年10月 鹿児島市文化財審議会委員
 - ・ 2021年11月～2023年10月 鹿児島市文化財審議会委員

小亀 拓也 講師

学会活動

- ・ 日本語学会，2019年5月～
- ・ 日本語文法学会，2019年7月～
- ・ 日本言語学会，2019年7月～
- ・ 西日本国語国文学会，2022年8月～

社会還元

1. 講師
「最初の学会発表・最初の学会誌投稿」，日本語文法学会研究活動支援プログラム（オンライン開催），2022年7月24日

竹本 寛秋 准教授

学術論文

1. 「「詩の作り方」の歴史性をめぐって」，単著，『全国大学国語教育学会 公開講座ブックレット』，第14号，2022年6月，pp.16-23.
2. 「「わからなさ」に向き合うこと ―新学習指導要領と「国語科」をめぐって」，単著，『昭和文学研究』，第85集，2022年9月，pp.62-75.
3. 「雑誌『小天地』と韻文へのまなざし」，単著，『復刻版 小天地 第二回配本』別冊，琥珀書房，2022年11月，pp.34-45.

その他（研究助成）

1. 「生態系と共同体をめぐる思想と表現に関する研究―山尾三省を中心として」，科学研究補助金，基盤研究C（研究代表者），2022～2027年度

2. 「雑誌『小天地』（金尾文淵堂発行）の基礎的研究—明治期大阪文芸メディアの戦略分析—」, 科学研究補助金, 基盤研究C (研究分担者), 2019~2022年度

学会活動

- ・ 北大国語国文学会, 1996年4月~, 北大国語国文学会 評議員
- ・ 日本近代文学会, 1996年4月~, 日本近代文学会九州支部 運営委員, 日本近代文学会九州支部秋季大会の実施 (2022年10月22日, 於鹿児島県立短期大学)
- ・ 日本文学協会, 1996年4月~
- ・ 西日本国語国文学会, 2016年4月~, 西日本国語国文学会 支部委員
- ・ 日本比較文学会, 2009年4月~, 『比較文学』 査読協力
- ・ 昭和文学会, 1996年4月~
- ・ 暮鳥会, 2007年4月~
- ・ 山尾三省記念会, 2022年4月~

社会還元

1. 情報提供者
科研費獲得に向けての情報交換会, 於: 鹿児島県立短期大学, 2022年5月25日
2. 講師
「忘れられた詩人? 蒲原有明」, 蒲原有明シンポジウム, 於: きりしま月の舟, 2022年8月14日
3. 講師
「宮沢賢治『銀河鉄道の夜』(1)」, 鹿児島読書サークル, 於: 鹿児島市教育総合センター, 2022年8月26日
4. 講師
「宮沢賢治『銀河鉄道の夜』(2)」, 鹿児島読書サークル, 於: 鹿児島市教育総合センター, 2022年9月9日
5. 講師
「カウンターカルチャーと屋久島, 奄美大島, 諏訪之瀬島」, 伊敷公民館講座「生き生き大学」, 於: 伊敷公民館, 2022年11月30日

社会活動

1. 2022年9月~10月, 鹿児島大学『地域政策科学研究』査読委員
2. 2022年10月22日, 鹿児島県高等学校文化連盟弁論大会審査員, 於: サンエールかごしま
3. 2022年11月23日, 鹿児島県高等学校弁論大会審査委員長, 於: 鹿児島県教職員互助組合会館

楊 虹 教授

著書

1. 友定賢治編, 『感動詞研究の展開』, ひつじ書房, 共著, 2022年3月, 352総頁, 担当箇所: 「初対面会話における感動詞「へー」「えー」の分析 中国語との対照から」, pp.189-217.

学会発表

1. 遠山千佳・楊虹「日本語学習者の「語り」における引用表現の特徴—談話構築ストラテジーとしての観点から—」, 共同, 第33回第二言語習得研究会 (JASLA) 全国大会, オンライン開催, 2022年12月9日

学会活動

- ・ 日本語教育学会, 国際連携委員
- ・ 社会言語科学会, 大会企画委員, 査読協力

英語英文学専攻

石井 英里子 准教授

学術論文

1. 「高品質な映像条件が人にもたらす癒やし効果の検討」, 共著, (篠原未歩, 石井英里子, 星野祐子, 山田光穂), 『パーソナルコンピュータ利用技術学会論文誌』, 第16巻, 第2号, pp. 40-55.
2. 「鑑賞時間を変化させたときの絵画鑑賞中の注視点の比較」, 共著, (野坂祐介, 石井英里子, 星野祐子, 山田光穂) 『パーソナルコンピュータ利用技術学会論文誌』, 第16巻, 第2号, pp. 30-39.
3. 「視線情報を活用した Web 検索支援システムの開発」, 共著, (森大河, 山田光穂, 石井英里子, 星野祐子) 『パーソナルコンピュータ利用技術学会論文誌』, 第16巻, 第2号, pp.20-29.

学会発表

1. 「視線情報の活用による Web 検索支援システムの開発」, 共同, (森大河, 山田光穂, 石井英里子, 星野祐子), 第14回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (第20回日本データベース学会年次大会) オンライン開催, 2022年2月27日 - 3月2日
2. 「Extracting Sightseeing-Related Information from Social Networking Service」, 共同, (SHIMUL Rakibul Hasan, Eriko ISHII, Mit-

suho YAMADA, Yuko HOSHINO), 第14回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (第20回日本データベース学会年次大会) オンライン開催, 2022年2月27日 - 3月2日

3. 「Web 閲覧中のユーザの視線に基づく関連情報提示システムの開発及び評価」, 共同, (森大河, 山田光穂, 石井英里子, 星野祐子), 第21回情報科学技術フォーラム (FIT2022), 於: 慶應義塾大学 矢上キャンパス ハイブリッド開催, 2022年9月13-15日
4. 「Web 閲覧中のユーザの視線に基づく関連情報提示システムの開発及び評価」, 共同, (森大河, 山田光穂, 石井英里子, 星野祐子), ARG 第18回 Web インテリジェンスとインタラクション研究会, 於: 高知工科大学永国寺キャンパス ハイブリッド開催, 2022年11月25-26日

学会活動

- ・ TESOL International Association, 2008年3月～
- ・ 多文化関係学会, 2010年4月～ 事務局長 (2021年4月～), 『多文化関係学』査読委員
- ・ 全国英語教育学会, 2018年9月～
- ・ 九州英語教育学会, 2018年9月～
- ・ メディア外国語教育学会 (LET), 2018年9月～
- ・ 大学英語教育学会, 2018年9月～

社会還元

1. 出張講義 (於: 鹿児島県立伊集院高等学校) 「アクティブラーニングで学ぶ英語コミュニケーション」, 2022年9月22日

ガルシア・アロヨ ホルヘ 准教授

学会発表

1. 「The Quest for Truth in Spain: Lights and Shadows of Hemingway's "Spanish" Works」, 単独, 第61回日本アメリカ文学会全国大会, 専修大学神田キャンパス, 2022年10月8日

学会活動

- ・ 日本アメリカ文学会, 2016年～, 会員

小林 朋子 准教授

学会活動

- ・ 日本アメリカ文学会, 2006年～, 会員

- ・ 日本英文学会, 2006年～, 会員
- ・ 鹿児島英語英文学会, 2006年～, 会員
- ・ 多民族研究学会, 2011年～, 会員 (2019年～大会運営委員)
- ・ 原爆文学研究会, 2019年～2022年, 会員

社会還元

1. 講師

「おとぎ話で読み解く文化の諸相」, 伊敷公民館講座, 於: 伊敷公民館, 2022年10月26日

2. 講師

「世界文学への招待」, 大学地域コンソーシアム鹿児島合同進学ガイダンス, 於: 鹿児島大学, 2022年12月3日

土持 かおり 助教

学会活動

- ・ 大学英語教育学会 (JACET) 九州・沖縄支部研究企画委員, 2014年4月～
- ・ 大学英語教育学会 (JACET) 会員, 1984年9月～
- ・ 外国語教育メディア学会 (LET) 会員, 1984年6月～
- ・ 九州英語教育学会, 2002年6月～

遠峯 伸一郎 教授

学会活動

- ・ 日本英語学会, 1995年～, 会員
- ・ 近代英語協会, 1997年～, 会員

轟 義昭 教授

学術論文

1. 「Enchanted by Miniatures of Goddess Fortune in the *Roman de la Rose* Manuscripts: Part 2」, 単著, 『研究年報』(鹿児島県立短期大学地域研究所), 第53号, 2022年3月, pp. 45-62.
2. 「Enchanted by Miniatures of Goddess Fortune in the *Roman de la Rose* Manuscripts: Part 3」, 単著, 『鹿児島県立短期大学紀要』, 第73号, 2022年12月, pp. 53-68.

社会還元

1. 講師

「比較文学的アプローチ『リア王』と『乱』一」, 出張講義, 於: 鹿児島県立国分高等学校, 2022年8月19日

生活科学科
食物栄養専攻

有村 恵美 助教

学術論文

1. 「血液透析患者における栄養食事指導のための食事摂取頻度調査：男女間の比較」, 共著, (○木下朋美, 中熊美和, 有村恵美), 「鹿児島県立短期大学研究年報 2021」, 2022年3月, pp.1-8.
2. 「慢性腎臓病における栄養食事指導の効果」, 共著, (○木下朋美, 中熊美和, 有村恵美), 「鹿児島県立短期大学研究年報 2021」, 2022年3月, pp.9-18.
3. 「外来腹膜透析患者における食塩味覚閾値と食事摂取頻度調査との関連」, 共著, (○中熊美和, 大久保由梨, 尾込いずみ, 吉田百合奈, 松本秀一朗, 東園美千代, 有村恵美), 「日本病態栄養学会誌」, 2022年9月, 25(3), pp.211-221. (査読有)

実例・症例報告

1. 「慢性腎臓病進展に及ぼす要因～栄養食事歴を含むアンケート調査～」, 共著, (○有村恵美, 中熊美和, 四枝皓二), 「日本栄養士会雑誌」, 2022年7月, 65(7), pp.393-399. (査読有)

資料

1. 「鹿児島県指宿市鰻地区における火山性蒸気カマド「スメ」の現状」, 共著, (○中熊美和, 有村恵美), 「食生活研究」, 2022年7月, 42(5), pp.350-359. (査読有)

その他(研究助成等)

1. 研究代表, 科学研究費基盤研究(C) 日本学術振興会「鹿児島市CKD予防ネットワークを活用した糖尿病腎症・網膜症栄養関連因子の検討」, 2018年4月～2023年3月
2. 共同研究, 日本腎栄養代謝研究会臨床研究「慢性腎臓病患者のたんぱく質制限食が腎機能低下抑制に及ぼす効果についての多施設研究」, 2018年9月～
3. 垂水元気プロジェクト調査チーム, 2021年～

学会活動

- ・ 日本病態栄養学会, 2002年6月～, 代議員(2019年4月～), 学術評議員(2020年1月～)

- ・ 日本糖尿病・妊娠学会, 2004年12月～
- ・ 日本腎臓学会, 2006年9月～
- ・ 日本糖尿病学会, 2007年5月～
- ・ 日本衛生学会, 2009年12月～, 学会準備運営委員(2022年7月～)
- ・ 日本糖尿病性腎症研究会, 2009年12月～
- ・ 日本CKDチーム医療研究会, 2010年10月～, 幹事(2011年10月～)
- ・ 日本糖尿病合併症学会, 2012年9月～
- ・ 日本産業衛生学会, 2014年12月～
- ・ 日本腎栄養代謝研究会, 2015年7月～, 幹事(2017年7月～2021年6月), 監事(2021年7月～)

社会還元

1. 指導者
「栄養食事指導」, 於: 上ノ町・加治屋クリニック, 2022年1～12月
2. 座長(一般演題)
「第24,25回日本病題栄養学会年次学術集会(調査・開発)」, 於: 国立京都国際会館, 2020年1月30日
3. 学生栄養食事指導ポスター掲示支援, 掲示計画「胃腸食(食事のポイント・レシピ紹介)」, 於: 鹿児島県庁, 2022年2月
4. 学生栄養食事指導ポスター掲示支援, 掲示計画「高尿酸血症(食事のポイント・レシピ紹介)」, 於: 鹿児島県庁, 2022年4月
5. 学生栄養食事指導ポスター掲示支援, 掲示計画「牛乳・乳製品(食品の効能・レシピ紹介)」, 於: 鹿児島県庁, 2022年6月
6. 学生栄養食事指導ポスター掲示支援, 掲示計画「果物(食品の効能・レシピ紹介)」, 於: 鹿児島県庁, 2022年8月
7. 学生栄養食事指導ポスター掲示支援, 掲示計画「きのこ類(食品の効能・レシピ紹介)」, 於: 鹿児島県庁, 2022年10月
8. 学生栄養食事指導掲示支援, 掲示計画「油脂類(食品の効能・レシピ紹介)」, 於: 鹿児島県庁, 2022年12月
9. スライド提供
「食事管理Q & A」, レミッチ説明会用スライド(MR使用): 鳥居薬品株式会社, 2022年2月
10. 講師
「栄養管理(小児疾患)」, 2022年度栄養教諭ステップアップ研修(5年経験者研修),

於：鹿児島県総合教育センター，2022年7月5日

11. 講師

「健康寿命 Up！～早期発見・早期介入～」，鹿児島県日置市日医認定産業医研修会，於：日置市医師会館，2022年7月21日

12. 講師

「食のパワー ～考えながら食べる」，出張講義，於：明桜館高校，2022年7月29日

13. 講師

「栄養士の魅力」，出張講義，於：加世田常潤高校，2022年8月24日

14. 審査委員

「第19回森のごちそうコンクール審査員（鹿児島県，鹿児島県竹産業振興会連合会，鹿児島県椎茸農業協同組合），（書類審査：鹿児島県庁）（実演審査：今村ライセンスアカデミー）」，2022年10月20日，2022年11月12日

社会活動

1. 2013年7月～，鹿児島市慢性腎疾患（CKD）予防ネットワーク事業オブザーバー
2. 2013年12月～，鹿児島市 CKD 手帳・世界腎臓デー ワーキング委員
3. 2022年4月～，かごしまこども食堂・地域食堂ネットワーク 相談役

木下 朋美 助教

学術論文

1. 血液透析患者における栄養食事指導のための食事摂取頻度調査：男女間の比較，共著（木下朋美，中熊美和，有村恵美），鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報第53号，pp.1- 8（2022）。
2. 慢性腎臓病における栄養食事指導の効果，共著（木下朋美，中熊美和，有村恵美），鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報，第53号，pp.9-18（2022）。

学会発表（口頭）

1. 学生に対する水出し茶を利用した緑茶に関する食育について，共同（○木下朋美，山下三香子），日本家政学会第74回大会，オンライン開催，2022年5月，第74回大会 研究発表要旨集，p.74

学会発表（ポスター）

1. 鹿児島県の家庭料理 地域の特徴 - 多くの島々と特色ある食材 - ，共同（○木下朋美，

山下三香子，他6名），日本調理科学会2022年度大会，兵庫県立大学（ハイブリッド開催），2022年9月，日本調理科学会2022年度大会研究発表要旨集，p.89

研究協力

1. 国際競争力強化技術開発プロジェクト「輸出促進のための新技術・新品種開発」

学会活動

- ・ 日本家政学会
- ・ 日本調理科学会
- ・ 日本茶業学会
- ・ 鹿児島県茶業技術協会
- ・ 茶学術研究会

社会還元

1. 講師
「お茶を知ろう！お茶入りドライカレー作り」，かごしま環境未来館主催学習講座，於：かごしま環境未来館，2022年6月18日
2. 講師
「お茶育研究会の取り組みについて」，県立山川高等学校お茶好き高校生支援・育成事業，於：県立山川高等学校，2022年12月5日
3. 産学連携に関するマスコミ報道
県産抹茶を使用した抹茶プリンの提供，MBC（2022年5月19日放送），南日本新聞（2022年5月26日掲載）
4. 県産紅茶を使用した紅茶パンナコッタの提供と紅茶パンの商品開発，南日本新聞（2022年11月4日掲載）
5. 県産紅茶・抹茶を使用したお茶パンの商品開発，日本農業新聞（2022年11月23日掲載）

社会活動

1. 2005年4月～現在，NPO 現代喫茶人の会，理事
2. 2013年4月～現在，お茶料理研究会，世話人
3. 2016年10月～現在，鹿児島県茶業会議所，かごしま茶販路拡大対策等活動助成
4. 2017年6月～現在，かごしま黒茶研究会，会員
5. 2019年1月～現在，鹿児島市農業振興協議会，委員
6. 2020年6月～現在，鹿児島県茶生産協会，茶業経営向上活動事業

多田 司 准教授

研究ノート

1. 「パークシャー種の異系統間における産肉能力と肉質特性の違い」, 共著, (○大小田勉, 井之上弘樹, 高橋宏敬, 喜田克憲, 多田司, 井尻大地, 大塚彰), 『鹿児島県農業開発総合センター研究報告』, 第16号, 2022年3月, pp.81-87.

学会発表 (口頭)

1. 「肥育飼料の甘藷原料の違いが「かごしま黒豚」の発育と肉質に及ぼす影響」, 共同 (○大小田勉, 井之上弘樹, 高橋宏敬, 喜田克憲, 多田司, 井尻大地, 大塚彰), 第15回日本暖地畜産学会鹿児島大会, 於: 鹿児島大学, 2022年10月30日

学会活動

- ・ 日本栄養・食糧学会, 1996年4月～, 正会員
- ・ 日本農芸化学会, 1998年4月～, 正会員
- ・ 2022年度日本食品科学工学会西日本支部および日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部合同大会 実行委員

社会還元

1. 講師
「食品添加物を体感しよう」, 宮崎県立飯野高等学校大学訪問ミニ講義, 於: 鹿児島県立短期大学, 2022年6月10日

中熊 美和 助教

学術論文

1. 「外来腹膜透析患者における食塩味覚閾値と食物摂取頻度調査との関連」, 共著, 査読有 (○中熊美和, 大久保由梨, 尾込いずみ, 吉田 百合奈, 松本秀一朗, 東園美千代, 有村恵美), 『日本病態栄養学会誌』, 第25巻, 第3号, 2022年9月, pp.211-221.
2. 「血液透析患者における栄養食事指導のための食物摂取頻度調査: 男女間の比較」, 共著 (○木下朋美, 中熊美和, 有村恵美), 『鹿児島県立短期大学研究年報』, 第53号, 2022年3月, pp.1-8.
3. 「慢性腎臓病における栄養食事指導の効果」, 共著 (○木下朋美, 中熊美和, 有村恵美), 『鹿児島県立短期大学研究年報』, 第53号, 2022年3月, pp.9-18.

資料

1. 「鹿児島県指宿市鰻地区における火山性蒸気

カマド「スメ」の現状」, 共著, 査読有 (○中熊美和, 有村恵美), 『食生活研究誌』, 第42巻, 第5号, 2022年7月, pp.60-69.

実例・症例報告

1. 「慢性腎臓病進展に及ぼす要因～栄養食事指導歴を含むアンケート調査～」, 共著, 査読有 (○有村恵美, 中熊美和, 四枝皓二), 『日本栄養士会雑誌』, 第65巻, 第7号, 2022年7月 pp.33-39

その他

1. 研究代表, 科学研究費研究活動スタート支援 日本学術振興会「鹿児島県指宿市鰻地区における火山性蒸気カマド「スメ」を利用した栄養教育法の開発」, 2022～2023年度
2. 研究代表, 2022年度地域研究学会 種村特別会員研究寄付金「指宿市鰻地区における蒸気カマド「スメ」で調理した食品のおいしさ」, 2022年度
3. 調査協力, 垂水元気プロジェクト調査チーム, 2022年～

学会活動

- ・ 日本病態栄養学会, 2012～
- ・ 日本臨床栄養代謝学会 (旧 日本静脈経腸栄養学会), 2014～
- ・ 給食経営管理学会, 2016～
- ・ 日本透析医学会, 2019～
- ・ 美味技術学会, 2020～
- ・ 日本食生活学会, 2022～

社会還元

1. 講師
「鹿児島の食文化」, 伊敷公民館講座 シニアいきいき大学, 於: 伊敷公民館, 2022年10月7日

広瀬 直人 教授

総説

1. 「熱帯・亜熱帯産農産物の加工利用と鮮度保持に関する研究」, 単著, 『日本食品保蔵学会誌』, 第48巻, 第1号, 2022年1月, pp.33-37.

資料

1. 「沖縄特産柑橘シークワシャーの未利用資源を原料とした抽出酢の開発」, 共著 (○広瀬直人, 前田剛希, 和田浩二, 太田英明), 『日本清涼飲料研究会第30回研究発表会講演集』, 2022年1月, pp.60-64.

2. 「黒糖の高品質化に関する研究および指導」, 単著, 『食品の試験と研究』, 第56号, 2022年2月, pp.154-159.

学会発表 (口頭)

1. 「品質成分および官能評価を用いたニガウリの特性評価」, 共同, (○吉元あや美, 山本健太, 武曾歩, 広瀬直人, 太田英明), 日本食品保蔵科学会第71回大会, 於: 北海道文教大学, 2022年6月19日, 日本食品保蔵科学会第71回大会講演要旨集, p.108.
2. 「多良間島産ササゲをもちいたテンペ (第2報)」, 共同, (○中川学, 前野覚大, 広瀬直人), 日本テンペ研究会2022年度大会, 於: サンビーチ OKAYAMA, 2022年8月20日

学会活動

- ・ 日本農芸化学会, 1990年～
- ・ 日本食品科学工学会, 2005年～, 本部理事, 西日本支部評議員
- ・ 日本食品保蔵科学会, 2008年～, 理事, 総務委員

社会還元

1. 講師
「黒糖の製造・保存と香り成分 (地域特産加工研究・開発におけるGC/MSの活用1)」, 日本食品科学工学会第69回大会セミナー, 於: 東京農業大学 (オンライン開催), 2022年8月25日
2. 講師
「シークワシャー抽出酢の開発 (地域特産加工研究・開発におけるGC/MSの活用2)」, 日本食品科学工学会第69回大会セミナー, 於: 東京農業大学 (オンライン開催), 2022年8月26日
3. 講師
「黒糖を測る」, 第32回西日本食品産業創造展'22機能性食品特別セミナー, 於: マリンメッセ福岡, 2022年11月16日
4. 講師
「美味しく食べるには, 見た目も大事!」, 令和4年度オープンキャンパスミニ講義, 於: 鹿児島県立短期大学, 2022年7月23日

社会活動

1. 2022年8月～2023年3月, 沖縄県ものづくり振興計画策定ワーキンググループ委員
2. 2022年9月～2023年3月, 黒糖品質検査アドバイザー

受賞

1. 日本清涼飲料研究会奨励賞, 「沖縄特産柑橘シークワシャーの未利用資源を原料とした抽出酢の開発」, 2022年11月8日

古川 那由太 助教

学会活動

- ・ 日本生化学会 2012年6月～
- ・ 日本農芸化学会 2012年11月～
- ・ 日本食品科学工学会 2022年5月～

社会還元

1. 講師
「まさにミラクル!? 味覚を変える食べ物・飲み物」, 出張講義, 於: 加世田常潤高校, 2022年8月23日

専門分野での発表業績

1. 「Lachancea fermentati KPC 1 genes for SSU, ITS1, 5.8S rRNA, ITS2, LSU partial and complete sequence.」, 単独, DDBJ/EMBL/GenBank databases, Accession number: LC730851, 2022年10月1日
2. 「Saccharomyces cerevisiae KPC 1 genes for 18S rRNA, ITS1, 5.8S rRNA, ITS2, 28S rRNA partial, and complete sequence.」, 単独, DDBJ/EMBL/GenBank databases, Accession number: LC739390, 2022年11月17日
3. 「Saccharomyces cerevisiae KAG 1 genes for 18S rRNA, ITS1, 5.8S rRNA, ITS2, 28S rRNA partial, and complete sequence.」, 単独, DDBJ/EMBL/GenBank databases, Accession number: LC739391, 2022年11月17日

山下 三香子 准教授

学術論文

1. 「保育所の給食と食育の役割 - 専門職である栄養士に期待する -」, 単著, 『福祉開発研究』, 5号, 2022年4月, pp.86-95 (査読).
2. Association of blood pressure and dietary intake of Sunomono, Japanese vinegared side dishes, in community-dwelling Japanese: A cross-sectional study, Hiroaki Kanouchi, Mikako Yamashita, Kaori Kaimoto, Akiko Kuwabara 他9名, Heliyon, 8, e09505, 2022年5月 (査読).

研究ノート

1. 「保育所給食を提供する立場から見た課題:

これからの保育所における栄養士の「役割」について, 共著 (笠野恵子, 山下三香子), 『第一幼児教育短期大学紀要』, 第16号, 2022年3月 pp.53-63.

学会発表 (ポスターセッション)

1. 「鹿児島県の家庭料理 地域の特徴 - 多くの島々と特色のある食材 -」 (ポスター), 共同 (○木下朋美, 山下三香子, 他6名), 日本調理科学会2022年度大会, 於: 兵庫県立大学 (オンライン開催), 2022年9月

その他 (研究協力, 研究助成等)

『在宅医療・介護ケアにおける管理栄養士・栄養士教育について』, 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 分担者

学会活動

「日本給食経営管理学会」評議員
鹿児島農村医学研究会調査研究委員会幹事

社会還元

1. 講師
2022年11月28日「保育園でのアレルギー対応」 (於: 社会福祉法人清豊福祉会)

社会活動

1. 2022年2月3日, KTS かが new 「節分に落花生!」 TV 出演

生活科学専攻

浅海 真弓 准教授

学術論文

1. 「AI 技術を用いた天然染料と合成染料で染めた布の判別」, 共著 (○森俊夫, 石田実紅, 國見圭奈子, 嘉陽美智, 浅海真弓), 『日本家政学会誌』, 第73巻, 第4号, 2022年4月, pp.206-211.

学会発表 (口頭)

1. 「ニューラルネットワークによる編目模様の視覚的特徴の評価」, 共同 (○浅海真弓, 森俊夫), 日本繊維製品消費科学会2022年年次大会, オンライン開催, 2022年6月25日, 日本繊維製品消費科学会2022年年次大会・研究発表要旨, p.18.

学会活動

- ・ 日本衣服学会, 2003年6月～
- ・ 日本繊維製品消費科学会, 2004年2月～
- ・ 日本家政学会, 2004年6月～, 日本家政学会

被服材料学会幹事 (2017年5月～), 日本家政学会第74回大会実行委員 (2020年10月～2022年9月), 日本家政学会被服材料学会役員 (2021年5月～), 日本家政学会九州支部常任幹事 (2022年6月～)

上笹貫 鷹暁 助教

学会活動

- ・ 日本デザイン学会

社会還元

1. 講師
「デザインあたま」, 鹿児島県立短期大学 夏のオープンキャンパス ミニ講義, 於: 鹿児島県立短期大学, 2022年7月23日

受賞

1. 日本タイポグラフィ年鑑2023 ロゴタイプ・シンボルマーク部門 入選, 「GO SYCLING KAGOSHIMA」, 2022年11月21日, アートディレクション・デザイン

デザイン

1. 霧島産有機栽培茶「ななほし茶」シリーズ パッケージデザイン3種 (始良市), アートディレクション・デザイン
2. ななほし商店 商品撮影 (始良市), アートディレクション・撮影

川島 茂 教授

学会活動

- ・ 日本建築学会
- ・ 日本建築家協会

社会還元

1. 2021年12月17日～2022年1月12日, ちいさないえのけんちく展/鹿児島県立短期大学 (6坪ギャラリー) 学生作品展示支援, 展示計画
2. 2022年2月7日～15日, 「生活科学専攻卒業研究作品展2022」 (学内展) 学生作品展示支援, 展示計画協力
3. 2022年2月26日～27日, 「鹿児島建築学生共同設計展 Kagoshima Design Project 2022」 (かごしま県民交流センター) 学生作品展示支援, 展示計画協力
4. 2022年2月23日～2月28日, 「生活科学専攻卒業研究作品展2022」 (マルヤガーデンズ Unitement garden) 学生作品展示支援, 展示計画協力
5. 2022年4月～6月, 鹿児島大学工学部建築学

科「建築設計Ⅲ」（設計課題：人とまちを動かすアートプレイス）講師

- 2022年5月14日，建築学会九州支部鹿児島支所 特別講演（鹿児島大学）講師「建築を設計するという事」
- 2022年5月～8月，「桜島地域における義務教育学校基本・実施設計プロポーザル審査委員会」委員
- 2022年6月17日～，全国生コンクリート工業組合連合会ウェブサイト動画「鉄筋コンクリート（RC）造の住宅」制作協力，工法および作品解説 出演
- 2022年8月～10月，「肝属郡医師会立病院再整備基本設計公募型プロポーザル審査委員会」委員
- 2022年9月，コラム「特集 階段の美学 まっすぐな階段 日本大学理工学部駿河台校舎1号館」寄稿／「日事連」2022年9月号掲載
- 2022年10月22日～23日，かごしま住まいと建築展（かごしま県民交流センター）学生作品展支援，展示計画
- 2022年10月22日～23日，JIA 建築展（黎明館）2021年度卒業制作作品出展企画支援
- 2022年11月24日，鹿児島県建築士会建築技術講習会（鹿屋市中央公民館）講師「建築を設計するという事」
- 2022年12月15日～2023年1月17日，ちいさないえのけんちく展／鹿児島県立短期大学（6坪ギャラリー）学生作品展示支援，展示計画

社会活動

- 2020年4月～，鹿児島市都市計画審議会 委員
- 2022年4月～，日本建築学会九州支部鹿児島支所 評議員
- 2022年4月～，日本建築家協会九州支部事業委員会 25年賞ワーキンググループ 委員

北 一浩 准教授

社会活動

- 2018年4月～，鹿児島市クリエイティブ産業育成支援検討委員
- 2022年4月・7月，鹿児島市観光印刷物検討委員会委員

受賞

- Voices of Tomorrow International Art Award（主催：CONTEMPORARY ART

CURATOR MAGAZINE），「Canvas of Dorozome #35」他7作品，受賞，2022年5月

- アートオリンピック2022（主催：一般財団法人山口文化財団），「Canvas of Dorozome #64」，入選，2020年12月

展覧会（グループ展）

- アートオリンピック2022，起雲閣（熱海），2021年6月

デザイン（実務）

- 「鹿児島観光コンベンション協会オリジナルエコバッグデザイン」，アートディレクション，2022年11月

掲載作品

- 「Canvas of Dorozome #27」，『研究年報』第53号（鹿児島県立短期大学地域研究所），2022年3月，pp.103
- 「Canvas of Dorozome #31」，『研究年報』第53号（鹿児島県立短期大学地域研究所），2022年3月，pp.104

坂上 ちえ子 教授

学会活動

- 日本家政学会，1990年～
- 日本色彩学会，1992年～，評議員，関西支部役員，光学四学会関西支部幹事
- 日本生理人類学会，1992年～
- 日本教育心理学会，2005年～

社会還元

- 講師
「ファッションビジネス」，出張講義，於：曾於高校，2022年11月30日

社会活動

- 2021年3月～2023年2月，鹿児島県伝統工芸品産業振興対策協議会委員
- 2022年4月～2024年3月，鹿児島市屋外広告物審議委員会委員
- 2021年4月～2024年3月，鹿児島県屋外広告物審議委員会委員

穴戸 克実 准教授

その他（研究協力等）

- 委託業務
文化庁・令和4年度緊急的文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）実施委託業務「カイロ旧市街の持続可能な保護策のための事業／

住民参加のまちづくり」, 責任者: 連健夫
(日本建築まちづくり適正支援機構), ~
2023年3月31日

学会活動

- ・ 日本建築学会
- ・ 日本中東学会
- ・ 地中海学会
- ・ 日本トルコ交流協会

社会還元

1. 講師

「Urban public spaces for activities; streets and traditional cafés」, Online lectures by Japanese through dialogue with NOUH (National Organization of Urban Harmony in Egypt) in charge of Historic Cairo, 於: カイロ・バイトヤカン (オンライン参加), 2022年2月21日

2. 講師

「Area Management」, Historic Cairo Urban community development facilitator training course, オンライン開催, 2022年10月29日

田中 真理 准教授

学術論文

1. 「青年期における現在および過去の祖父母との交流と祖父母機能」, 共著 (○田中真理・鎌田晶子・秋山美栄子), 『鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報』(53), 2022年3月, pp.19-29.

資料

1. 「2021年度教育実習の実態調査」, 共著 (○田中真理・田口康明), 『鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報』(53), 2022年3月, pp.105-121.

学会発表 (口頭)

1. 「認知症高齢者の介護抵抗と徘徊への対応に関する検討～ステップ式仮説検証型事例検討による実践報告～」, 共同 (○田中真理・榎本尚子・姥名真利子・金田一文子・立崎洋子・大川一郎・成木迅・蛭川康子), 日本老年行動科学会第24回大会 (ハイブリッド開催: 京都会場 + オンライン会場), 2022年11月13日, 日本老年行動科学会第24回大会抄録集, p30.

学会活動

- ・ 日本老年行動科学会, 2006年～
- ・ 日本心理学会, 2007年～
- ・ 日本発達心理学会, 2008年～
- ・ 日本心理臨床学会, 2009年～

社会還元

1. 講師

「ステップ式仮説検証型事例検討勉強会」, 日本老年行動科学会岩手支部主催, オンライン開催, 2022年6月20日.

社会活動

1. 2011年1月～現在, 日本老年行動科学会・常任理事
2. 2020年1月～2022年12月, 日本老年行動科学会・事例検討委員会委員長

田邊 しずか 助教

学術論文

1. 「1930年代の日本女子大生の洋服—孝子の洋服所持の実態と装いの具体像—」, 『小林孝子衣服標本資料集』, 2022年2月28日発行, pp.120-122.
2. 「1920年代フランスのモード誌にあらわれた麻雀—女性たちの外国文化の受容—」, 服飾文化学会誌『服飾学研究』vol.4, 2022年2月28日発行, pp.65-79 (査読有).
3. 「スポーティという語が表した女性の洋服—1930年代後半の雑誌『スタイル』を中心に—」, 『日本女子大学総合研究所紀要』第25号, 11月1日発行, pp.76-83.

資料

1. 「ECサイトにおける布の風合いに関する表現と消費者の意識」, 共著 (○谷祥子, 田邊しずか, 奥脇菜那子, 松梨久仁子, 信木理恵子, 安藤健), 日本繊維製品消費科学会誌『繊維製品消費科学』, 2022年3月号.

解説

1. 『小林孝子衣服標本資料集』(日本女子大学総合研究所, 2022年2月28日発行)内「小林孝子衣服標本解説」, 担当: 2-19, 2-21, 2-29, 2-32 2-35, pp.97-99.

学会発表 (口頭)

1. 日本女子大学総合研究所シンポジウム『小林孝子衣服標本』資料集完成記念 ファッションと衣生活の近代—1920～1930年代のバリと横須賀一, 成果報告「1930年代の日本女子大

生の洋服—孝子の洋服所持の実態と装いの具
体像—」, 於: 日本女子大学とオンラインの
ハイブリッド開催, 2022年3月19日

学会活動

- ・服飾文化学会, 2016年5月～

社会還元

1. 講師

公益社団法人 日本理容美容教育センター 理
容師美容師養成施設教員資格認定研修会文化
論講師, 「ファッション文化史 西洋編 (前
半), 礼装の種類」, 於: 日本理容美容教育セ
ンター, 2022年8月26, 30日

2. 講師

「外国文化を受容すること, 1920年代のパ
リ・ファッションと麻雀」, 伊敷公民館講座
シニアいきいき大学, 於: 伊敷公民館, 2022
年11月17日

社会活動

1. 2022年6月29日～ 公益財団法人かごしま環
境未来財団評議員

商経学科

経済専攻

岩上 敏秀 教授

学会活動

- ・日本ファイナンス学会, 2022年1月～
- ・日本金融学会, 2022年5月～

社会還元

1. 講師

「経済・社会・ビジネスの『今』と『これか
ら』」, 2022年度鹿児島県立短期大学公開講座,
第6回「進化する金融とわたしたちの生活」,
於: 鹿児島県立短期大学, 2022年6月25日

岡田 登 准教授

学術論文

1. 「農業法人による生産空間の拡大過程—鹿児
島県南九州市を事例に一」, 単著, 『鹿児島県立
短期大学地域研究所研究年報』, 第53号, 2022
年3月, pp.63-76.
2. 「日本における農業法人化の展開とその分布
特性」, 単著, 『鹿児島県立短期大学商経論叢』,
第73号, 2022年10月, pp.1-19.
3. 「農業法人と食品業者の関係性からみた野菜

生産空間の拡大過程—鹿児島県鹿屋市を事例
に一」, 単著, 『鹿児島県立短期大学紀要 人
文・社会科学編』, 第73号, 2022年12月,
pp.21-36.

その他 (研究助成)

1. 研究代表者, 科学研究費基盤研究 (C) 日本
学術振興会「輸入農産物影響下における野菜
生産法人の増加と産地再編成」, 2017年4月
～2023年3月

社会還元

1. 講師

鹿児島県立短期大学公開講座「鹿児島の農業
と食の展開」, 2022年5月21日.

2. 講師

出張講義 県立明桜館高等学校「鹿児島の農
業と食」, 2022年7月29日.

3. 講師

日本地理学会資格専門委員会, 地域調査士講
習会, 2022年10月16日.

4. 講師

鹿児島県総合政策部統計課, かごしま統計デ
ータ分析セミナー, 2022年10月26日.

5. 講師

伊敷公民館講座「なぜ鹿児島では畜産が盛ん
なのか?」2022年11月16日.

社会活動

1. 「栄門 つながる このまち」実行委員会 監
事
2. 「未来自治体2022」メンター
3. 「未来国会2022」メンター

福田 忠弘 教授

その他 (研究助成)

1. 研究代表, 科学研究費基盤研究 (C) 日本学
術振興会「戦前期日本人水産業者の外南洋進出
と南進論」, 2020年4月～2022年3月.

学会活動

- ・東南アジア学会, 学会賞選考委員

船津 潤 准教授

学術論文

1. 「シリセナ大統領期のスリランカ財政—多層
的構造を踏まえた財政分析 (上)」, 単著,
『鹿児島県立短期大学地域研究所 研究年
報』第53号, 2022年3月, pp.77-94.

学会活動

- ・日本地方財政学会, 2000年～
- ・日本財政学会, 2000年～

社会還元

1. 講師

「財政について考える」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 於: 鹿児島県立短期大学, 2022年5月28日

2. 講師

「地方財政について」, 出張講義, 於: 鹿児島県立国分高等学校, 2022年8月19日

3. 講師

「経済学の理論とその活用法」, 生き生き大学(鹿児島市伊敷公民館主催), 於: 伊敷公民館, 2022年11月2日

社会活動

(非公開)

山口 祐司 講師

社会還元

1. 講師

「経済安全保障と医薬品開発 —新型コロナウイルスパンデミックの教訓—」, 鹿児島県立短期大学公開講座「経済・社会・ビジネスの『今』と『これから』」第7回, 於: 鹿児島県立短期大学, 2022年7月2日

経営情報専攻

岡村 俊彦 教授

学術論文

1. 「商業系における情報教育の高大接続」, 単著, 『鹿児島県立短期大学紀要 人文・社会編』, 第74号, 2022年12月 pp.37-51

学会活動

- ・ 日本人間工学会, 1987年4月～
- ・ 日本生理心理学会, 1988年4月～
- ・ 日本心理学会, 1989年10月～

社会還元

1. 講師

「エクセルを使った統計データの加工と分析」, 令和4年度市町村統計主管課長会議及び統計職員業務研修(オンライン), 2022年5月19日

2. 講師

『講座: ICT技術とプログラミングの基

礎』において「AIとDXが社会にもたらす影響」, 「効率的な業務推進に役立つパソコン操作のコツ」を担当。中堅教諭等資質向上研修 於: 鹿児島県立短期大学, 2022年7月27日

3. 講師

「AI, IoT, ビッグデータの三角関係」出張講義, 於: 武岡台高校, 2022年9月17日

4. 講師

「AI, IoT, ビッグデータの三角関係」出張講義, 於: 曾於高校, 2022年10月17日

5. 講師

「上手な身体の使い方」附属図書館金曜講演会, 3回目「身体に負担をかけない動き方のコツ ～ボディメカニクス～」, 於: 鹿児島県立短期大学, 2022年11月16日

6. コラム執筆

「パソコン作業時の負担を少なくする方法」, 鹿児島労基 令和4年9月号, 2022年9月

社会活動

1. 2003年4月～, 鹿児島産業保健総合支援センター 特別相談員
2. 2007年4月～, 鹿児島女子高等学校 学外評議員
3. 2013年3月～, 鹿児島ラ・サール学園 評議員

岡村 雄輝 准教授

学会活動

- ・ 日本簿記学会, 2018年8月～
- ・ 日本記号学会, 2017年4月～
- ・ 日本会計研究学会, 2013年9月～
- ・ 日本会計史学会, 2012年10月～
- ・ 九州経済学会, 2009年12月～

社会活動

1. 2019年9月～, 鹿児島県公衆浴場入浴料金審議会委員

倉重 賢治 教授

学術論文

1. 「投入順序とコンベヤ速度を同時に考慮した混合組立ライン問題」, 共著, (○倉重賢治, 柳川佳也), 『日本経営工学会論文誌』, Vol.73, No.2, 2022年7月, pp.31-42

その他

1. 「ICIMの思い出・雑感」, 共著, (広谷大助,

井上真二, 片岡隆之, 金川明弘, 神垣太持, 倉重賢治, 他全10名), 『経営システム』, Vol.31, No.2, 2022年1月, pp.142-148

学会活動

- ・日本経営工学会, 1993年～
- ・日本機械学会, 1994年～
- ・日本生産管理学会, 2003年～

学会活動

1. 講師
「統計における誤差について」(動画配信), 統計職員業務研修(基礎研修), 2022年5月19日
2. 講師
「ICT技術とプログラミングの基礎」, パワーアップ研修(中堅教諭等資質向上研修), 2022年7月27日

瀬口 毅士 准教授

学会活動

- ・日本経営学会, 2006年～
- ・日本比較経営学会, 2004年～
- ・日本流通学会, 2014年～
- ・多国籍企業学会, 2013年～
- ・経営史学会, 2014年～

社会還元

1. 講師
「これからの鹿児島企業を考える」, 鹿児島県教職員組合第43回事務職員部活動者学習会, 於: 互助組合会館, 2022年10月22日

社会活動

1. 2021年10月～現在, 鹿児島市新規創業者等育成支援検討委員会委員

竹中 啓之 准教授

社会活動

1. 2021年6月～2025年6月, 公益財団法人鹿児島住宅・建築総合センター評議会 評議委員

近間 由幸 講師

学術論文

1. 「接客サービス労働過程における職場の自律性管理の一考察」, 単著, 『唯物論と現代』第66号, 2022年10月, pp.68-85.

学会活動

- ・日本労働社会学会, 2015年～, 幹事, 2022年12月～

- ・社会政策学会, 2016年～, 春季大会企画委員会, 2022年8月～, 学会誌編集委員会, 2022年8月～
- ・労務理論学会, 2019年～

社会還元

1. 講師
「コロナが雇用に与えた影響とアフターコロナの働き方」, 2022年度公開講座「経済・社会・ビジネスの『今』と『これから』」, 於: 鹿児島県立短期大学, 2022年6月4日

二部商経学科

宗田 健一 教授

著書

1. 上野清貴・小野正芳編著『スタートアップ会計学(第3版)』, 同文館出版, 2022年3月30日(初版), 総248頁(宗田健一「第5章 会計は企業経営にどう役立つの - 管理会計 -」(単著, 71-84頁)).
2. 成川正晃編著『ビジネスセンスが身につく簿記 第2版』, 中央経済社, 2022年3月3日(第2版), 総177頁(宗田健一「11 取引と勘定」「12 勘定記入の方法と取引の分解」「13 トレーニング⑤」「14 仕訳と仕訳帳」「15 トレーニング⑥」(単著, 40-59頁)).

学術論文

1. 櫛部幸子・宗田健一「中小企業における資金情報作成の必要性 - コロナ金融支援を受けた中小企業に対するアンケート調査の分析を基礎として -」『大阪学院大学商・経営学論集』第48巻第1号, 2022年9月, 29-48頁.

研究報告書

1. 平賀正剛編著『日本の中小企業会計の基礎概念に関する研究 - 文化的視座からのアプローチ』(中小企業会計学会課題研究委員会<令和4年度最終報告書>) 2022年11月13日, 総130頁(宗田健一「第4章 中小企業の企業観」(単著, 49-56頁)).

学会年報

1. 平賀正剛他9名「日本の中小企業会計の基礎概念に関する研究 - 文化的視座からのアプローチ (課題研究委員会 中間報告)」『中小企業会計研究』(中小企業会計学会学会誌編集委員会編) 第5号, 91-95頁, 2022年

9月.

2. 宗田健一他13名「簿記講義法に関する研究－ティーチング・ティップスの作成（簿記教育研究部会：最終報告）」『日本簿記学会 年報』（日本簿記学会学会誌編集委員会編）第37号，2022年9月.

資料

1. 宗田健一『高等学校教員向けアンケート調査結果報告（資料）』，日本会計教育学会スタディ・グループ「遠隔授業時代の会計教育」，2022年10月15日.

学会発表（口頭）

1. 「日本の中小企業会計の基礎概念に関する研究：文化的視座からのアプローチ」，共同（平賀正剛，宗田健一他8名），中小企業会計学会第10回全国大会 課題研究委員会＜最終報告＞，明治大学（対面開催），2022年11月13日.
2. 「中小企業における管理会計導入要因の分析：老舗企業の事例をもとに」，共同（君島美葵子，宗田健一），中小企業会計学会第10回全国大会 自由論題報告，明治大学（対面開催），2022年11月12日.
3. 「アフターコロナの会計教育」，共同（竹中徹，宗田健一他5名），日本会計教育学会第14回全国大会 統一論題討論，姫路市男女共同参画推進センター（対面・オンライン開催），2022年10月16日.
4. 「遠隔授業時代の高校会計教育」，共同（宗田健一，櫛部幸子，山脇香織），日本会計教育学会第14回全国大会 統一論題報告，姫路市男女共同参画推進センター（対面・オンライン開催），2022年10月16日.
5. 「中小企業に対する会計専門職の支援実態とそのあり方－コロナ禍の中小企業支援を事例として－」，共同（宗田健一，櫛部幸子），日本経営会計専門家研究学会 2022年度第1回大会 自由論題報告，福岡大学（対面・オンライン開催），2022年6月25日.
6. 「中小企業における資金情報の見える化と事業継続に関する情報作成の必要性の考察－コロナ金融支援を受けた中小企業に対するアンケート調査の分析を基礎として－」，共同（櫛部幸子，宗田健一），日本会計研究学会第110回九州部会，熊本学園大学（オンライン開催），2022年3月5日.

学会活動

- ・ 日本会計研究学会，2002年～現在，会員
- ・ 国際会計研究学会，2007年～現在，会員
- ・ 日本簿記学会，2008年～現在，会員
- ・ 日本会計教育学会，2009年～現在：会員
- ・ －理事（ICT 委員長）（2020年～現在）
- ・ －第14回全国大会準備委員会（委員），2022年10月15-16日，姫路市男女共同参画推進センター：対面・オンラインの併用
- ・ －スタディー・グループ（委員），「遠隔授業時代の会計教育」，2020年9月～2022年9月
- ・ 中小企業会計学会，2013年～現在，会員
- ・ －理事（担当：渉外），2021年～現在
- ・ －学会誌編集委員会（委員），2021年～現在
- ・ －課題研究委員会（委員），「日本の中小企業会計の基礎概念に関する研究－文化的視座からのアプローチ」，2019年9月～2022年11月
- ・ 日本経済会計学会，2015年～現在，会員
- ・ 日本管理会計学会，2017年～現在，会員
- ・ 日本財務管理学会，2019年～現在，会員
- ・ 日本経営会計専門家研究学会，2022年～現在，会員

社会還元

1. 講師
鹿児島国際大学サテライトキャンパス「企業経営基礎講座」 講師（2022年10月）
2. 講師
大阪経済大学大学院経営情報研究科科目「論文指導」 学外講師（2022年6,11月）

社会活動

1. 龍谷大学校友会鹿児島支部 理事，2017年度～現在

その他－競争的資金（学外）

1. 公益財団法人 牧誠財団研究助成，研究課題名：「老舗中小企業の経営資源承継から見た会計管理実務の理論化」（共同），助成金交付決定番号：研究2020003号（研究助成A），補助事業期間：2020年7月1日～2022年6月30日
2. 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金），研究課題名：「新型コロナウイルス支援融資を受けた中小企業のデフォルトリスクに関する理論的・実態的分析」（研究分担者），研究種目：令和3年度 基盤研究（C），課題番号：21K01830，補助事業期間：2021年度～2023

年度

その他－競争的資金（学内）

1. 鹿児島県立短期大学地域研究所, 「新型コロナナ支援融資等を受けた鹿児島県内中小企業の調査」(代表者), 共同プロジェクト, 2021年度～2023年度(予定)
2. 鹿児島県立短期大学地域研究所, 「宇宙ゴミ排出権取引会計の基礎研究」(代表者), 個人プロジェクト, 2022年度～2024年度(予定)
3. 鹿児島県立短期大学地域研究所, 「日本の中小企業会計の基礎概念に関する研究 — 中小企業の企業観と会計像 —」, 研究成果公開, 2022年度

田口 康明 教授

資料

1. 共著・2021年年度の教育実習実態調査 研究年報2021 鹿児島県立短期大学地域研究所 2022年3月

社会還元

1. 講師
鹿児島県立短期大学 公開講座 7月9日
学校教育の「今」と「これから」
2. 講師
霧島市教育部社会教育課主催 令和4年度ニューライフカレッジ霧島(隼人学) 12/10
国分総合福祉センター「世界の教育, 日本の教育, 鹿児島の教育」

野村 俊郎 教授

学術論文

1. 「トヨタ生産方式の基盤「職場力」と知識変換～3本柱活動の概要と分析方法～(下の3)」, 単著, 『鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報』, 第53号, 2022年3月, pp.95-101.

社会還元

1. 講師
2022年度鹿児島県立短期大学公開講座「経済・社会・ビジネスの『今』と『これから』」第5回「日本のプロセス・イノベーションと人間労働の未来」, 2022年6月18日

疋田 京子 教授

学術論文

1. 「インドネシアの海外移民労働者の「保護」

をめぐる法制度改革」(単著), 『アジア法研究』15号(2021-2022年版).

学会発表(口頭)

1. “Legal System for the Placement and Protection of Overseas Migrant Workers: Indonesias Sending Policy. “Symposium Migrant Policy Japan in a Post-Covid-19 Era : Towers a Policy-Making Based on International Human Rights Standards, Saturday, 12th November 2022 13:00 to 19:00 (JST), Organaised by Kyoto Human Reseach Institute, Migration and Human Right Team

学会活動

- ・ アジア法学会(理事)
- ・ 日本法哲学会
- ・ ジェンダー法学会

社会還元

1. 講師
「作文さくさく書きたいな～ぼくのわたしの好きを伝えよう」薩摩川内市ひとみらい課主催, 男女共同参画講座夏休み企画, 於: SS プラザせんだい, 2022年7月24日
2. 講師
「人権問題の現在」吉田地域人権問題研修会, 於: 吉田公民館, 2022年11月19日
3. テレビコメント
MBC ニュース「成人年齢1日から18歳に 鹿児島でも期待と困惑」, 2022年4月1日

社会活動

1. 2014年12月6日～現在, 鹿児島県事業認定審議会委員
2. 2018年～現在 社会福祉法人明澈会・南さつま子どもの家施設評価委員

山本 敬生 准教授

学術論文

1. 「行政立法と司法審査」, 単著, 『自治研かごしま』第130号, 2022年4月20日, pp.41-47.

判例評釈

1. 「行政行為の成立」, 単著, 『行政判例百選〔第8版〕』, 2022年11月30日, pp.110-111.

学会活動

- ・ 日本公法学会, 2001年10月～現在
- ・ 行政判例研究会, 2001年10月～現在

社会還元

1. 講師

「鹿児島県の近未来像を読む」, 令和4年度 公開講座 (かごしま県民大学連携講座)「経済・社会・ビジネスの『今』と『これから』」, 於: 本学14講義室, 2022年6月11日

2. 講師

「国政選挙の結果から見えてくるこれからの日本の政治」, 2022県職労政治集会講演会, 於: 鹿児島県市町村自治会館401号室, 2022年9月10日

社会活動

1. 2005年3月～現在, 鹿児島県地方自治研究所 研究理事
2. 2013年4月～現在, 同研究所自治体創造プロジェクト主査
3. 2017年11月～現在, 自治研かごしま編集長
4. 2013年4月～現在, 鹿児島県市町村統一的情報公開・個人情報審査会 (会長)

(枕崎市, 指宿市, 西之表市, 日置市, 曾於市, いちき串木野市, 南さつま市, 志布志市, 伊佐市, 三島村, 十島村, さつま町, 長島町, 湧水町, 大崎町, 東串良町, 錦江町, 南大隅町, 肝付町, 中種子町, 南種子町, 屋久島町, 大和村, 宇検村, 瀬戸内町, 龍郷町, 喜界町, 徳之島町, 天城町, 伊仙町, 和泊町, 知名町, 与論町, 鹿児島県市町村総合事務組合, いちき串木野市・日置市衛生処理組合, 指宿南九州消防組合, 指宿広域市町村圏組合, 大隅曾於地区消防組合, 大隅肝属地区消防組合, 沖永良部与論地区広域事務組合, 徳之島地区消防組合, 曾於南部厚生事務組合, 熊毛地区消防組合, 曾於地区介護保険組合, 大隅肝属広域事務組合, 公立種子島病院組合, 鹿児島県後期高齢者医療広域連合, 種子島地区広域事務組合, 以上鹿児島県市町村統一の情報公開・個人情報審査会に加盟する9市24町村15組合の情報公開・個人情報審査会 (会長))

5. 2013年4月～現在, 鹿児島県市町村統一の行政不服審査会 (会長)

(鹿屋市, 枕崎市, 指宿市, 西之表市, 垂水市, 日置市, 曾於市, いちき串木野市, 南さつま市, 志布志市, 南九州市, 伊佐市, 三島村, 十島村, さつま町, 長島町, 湧水町, 大崎町, 東串良町, 錦江町, 南大隅町, 肝付町, 中種子町, 南種子町, 屋久島町, 大和村, 宇検村, 瀬戸内町, 龍郷町, 喜界町, 徳之島町, 天城町, 伊仙町, 和泊町, 知名町, 与論町,

鹿児島県市町村総合事務組合, いちき串木野市・日置市衛生処理組合, 南薩地区衛生管理組合, 沖永良部バス企業団, 指宿南九州消防組合, 指宿広域市町村圏組合, 曾於北部衛生処理組合, 南大隅衛生管理組合, 伊佐湧水消防組合, 沖永良部衛生管理組合, 大口地方卸売市場管理組合, 伊佐北始良環境管理組合, 大隅曾於地区消防組合, 大隅肝属地区消防組合, 伊佐北始良火葬場管理組合, 曾於地域公設地方卸売市場管理組合, 沖永良部与論地区広域事務組合, 徳之島地区消防組合, 曾於南部厚生事務組合, 熊毛地区消防組合, 種子島地区広域事務組合, 大隅肝属広域事務組合, 徳之島愛ランド広域連合, 公立種子島病院組合, 鹿児島県後期高齢者医療広域連合, 種子島産婦人科医院組合, 以上鹿児島県市町村統一の行政不服審査会に加盟する12市24町村26組合の情報公開・個人情報審査会 (会長))

6. 2015年3月～現在, いちき串木野市自治基本条例推進審議会委員
7. 2015年6月～現在, 鹿児島県後期高齢者医療広域連合特定個人情報保護評価審査会委員
8. 2017年4月～現在, 鹿児島県市町村総合事務組合退職手当審査会委員
9. 2017年2月～現在, 霧島市情報公開・個人情報保護審査会委員 (会長)
10. 2017年2月～現在, 霧島市個人情報保護審議会委員 (会長)
11. 2017年2月～現在, 霧島市行政不服審査会委員 (会長)
12. 2017年4月～現在, 始良市公平委員会 (委員長)
13. 2017年5月～現在, 始良市行政不服審査会委員 (会長)
14. 2018年12月～現在, 鹿児島県全国がん登録情報有識者会議委員
15. 2022年9月～現在, 錦江町水源地域保全条例 (仮称) 有識者検討会議委員
16. 2022年7月19日, 南日本新聞コメント「市議会示せぬ存在感」
17. 2022年8月25日, 南日本新聞コメント「『勝手橋』補修に壁」
18. 2022年11月23日, 南日本新聞コメント「市, 手続き不備放置」

『KUROSHIO』第48巻

2023年3月31日 発行

編集・発行 鹿児島県立短期大学地域研究所

〒890-0005

鹿児島市下伊敷一丁目52番1号

TEL：099-220-1111

FAX：099-803-4473

印刷所 株式会社あすなろ印刷

〒890-0041

鹿児島市城西2-2-36

TEL：099-214-3757

FAX：099-214-3758

表紙写真：森田美帆

KUROSHIO